

大学教育再生加速プログラム(AP) 中間評価結果

整理番号	14	大学等名	新潟工科大学
テーマ	テーマⅡ 学修成果の可視化		

【総括評価】

A：計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

【コメント】

<優れている点>

- ・成績評価の平準化のための全てのゼミ・実験系の科目へのルーブリックの導入や、企業アンケートや基礎学力到達度テストを基にした達成度自己評価システムの構築は評価できる。
- ・学長と教育担当副学長の直下に教職員協働型の教育改革加速チームを設置し、スピーディーに取組を行える体制を整備したことは評価できる。
- ・AP シンポジウムを主催して事業報告と今後の取組のアピールを行い、また、ニュースレター、YouTube、ホームページ等で取組を外部へ発信することで普及に努めていることは評価できる。
- ・入学試験に面談の配点を高くして中退リスク学生を削減していること、IR を用いたカリキュラム改善、AP 事業により可視化された指標の就職活動での活用など、入口から出口まで質保証の伴った大学教育に取り組んでいることは評価できる。

<改善を要する点>

- ・「企業が求める基礎学力到達度テスト」、「達成度自己評価システム」、「対話型企業技術・要素会」、「カリキュラムマップ」の作成等に関わった責任部署が中間評価調書では不明なため、明示する必要がある。
- ・外部委託のコンサルティングの仕事内容が不明であるため、明示する必要がある。
- ・学修行動調査実施率、授業外学修時間、FD・SD の受講者数において、目標を達成していないため、原因分析と改善に向けて努力する必要がある。